

## 第34回「放送文化基金賞」

財団法人放送文化基金(理事長 河竹 登志夫)では、第34回放送文化基金賞を次のとおり(詳細別紙)決定しました。

### 1 番組部門 13番組、5件

- (1) テレビドキュメンタリー番組..... 5番組  
本賞 1 優秀賞 1 テレビドキュメンタリー番組賞 3
- (2) テレビドラマ番組..... 4番組  
本賞 1 優秀賞 1 テレビドラマ番組賞 2
- (3) ラジオ番組..... 4番組  
本賞 該当なし 優秀賞 2 ラジオ番組賞 2
- (4) 個別分野賞..... 5件
  - 「出演者賞」 2件
  - 「制作賞」 1件
  - 「演出賞」 1件
  - 「映像賞」 1件

### 2 個人・グループ部門 8件

- (1) 放送文化..... 4件
- (2) 放送技術..... 4件

受賞番組、受賞者には、賞状、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞 200万円、優秀賞 100万円、各番組賞 50万円、番組部門の個別分野賞 各30万円、個人・グループ部門 各50万円です。

なお、贈呈式は、平成20年6月13日(金)午後4時30分から千代田放送会館ホール(東京都千代田区紀尾井町)で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金(担当 川副、安部)  
東京都渋谷区宇田川町41-1 共同ビル5F  
(03)3464-3131

## 第34回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績	
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (200万円)	NHK	NHKスペシャル 夫婦で挑んだ白夜の大岩壁
		優秀賞 (100万円)	日本テレビ放送網	ネットカフェ難民 ～見えないホームレス急増の背景～
		(50万円)	NHK名古屋放送局	NHKスペシャル あなたの笑顔を覚えていたい
		テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)	アール・ケー・ピー毎日放送	母は闘う ～薬害肝炎訴訟原告 山口美智子の20年～
	(50万円)	毎日放送	映像'07 夫はなぜ死んだのか ～過労死認定の厚い壁～	
	テレビドラマ番組	本賞 (200万円)	NHK名古屋放送局	NHKスペシャル 鬼太郎が見た玉砕 ～水木しげるの戦争～
		優秀賞 (100万円)	テレビ朝日	テレビ朝日開局50周年記念ドラマスペシャル 点と線
		テレビドラマ番組賞 (50万円)	NHK	土曜ドラマ フルスイング
		(50万円)	NHK	NHKスペシャル シリーズ 最強ウイルス 第1夜 感染爆発 ～パンデミック・フルー～
	ラジオ番組	本賞 (200万円)	該当なし	
		優秀賞 (100万円)	NHK	F Mシアター 明治おばけ暦
		優秀賞 (100万円)	エフエム沖縄	ラジオドキュメンタリー 85歳のアスリート 秘訣 ～健康だからできること～
		ラジオ番組賞 (50万円)	大阪放送	浪曲「吉岡先生」と大阪防災元年
		(50万円)	アール・ケー・ピー毎日放送	あの日あの時あの時代・福岡フォーク物語
	個別分野	出演者賞 (30万円)	香川 照之	「鬼太郎が見た玉砕」の演技
出演者賞 (30万円)		山野井泰史、山野井妙子	「夫婦で挑んだ白夜の大岩壁」の出演	
制作賞 (30万円)		山川 悦史	「85歳のアスリート」の制作	
演出賞 (30万円)		柳川 強	「鬼太郎が見た玉砕」の演出	
映像賞 (30万円)		根本 隆、高橋 克昌、田村 幸英	「夫婦で挑んだ白夜の大岩壁」の映像	
個人・グループ部門	放送文化	(50万円)	石橋 冠 (演出家)	『点と線』をはじめとする長年にわたる優れたテレビドラマの演出
		(50万円)	中野 英世 (NHKメディアテクノロジー チーフ・カメラマン)	優れたカメラ映像による放送文化への貢献
		(50万円)	NHKスペシャル「激流中国」制作グループ (NHK、NHKインタープライズ、テムジン)	中国の深層を描くドキュメンタリーシリーズの取材・制作
		(50万円)	NHK「かぐや」プロジェクト (NHK)	月周回衛星「かぐや」のハイビジョンカメラによる「地球の出」「月面」の撮影及び番組・ニュースの制作
	放送技術	(50万円)	「かぐや」搭載HDTV開発グループ 代表 山崎 順一 (NHK)	月周回衛星「かぐや」に搭載した月と地球をHDTVで撮影するシステムの開発
		(50万円)	FileCast開発・導入グループ 代表 木村 好信 (フジテレビジョン)	取材映像IP伝送システム (FileCast) の開発と実用化
		(50万円)	チャンネルイレーサー「凸凹くん」開発チーム 代表 佐藤 誠 (日本テレビ放送網)	地上デジタル放送用ギャップフィルター装置～チャンネルイレーサー「凸凹くん」の開発～
		(50万円)	谷知 紀英、近藤 五郎 (読売テレビ放送)	違法動画サイト対策に絶大な威力「とりし丸」の開発

\*番組部門の各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第34回 放送文化基金賞  
「番組部門」  
テレビドキュメンタリー番組

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
NHKスペシャル 夫婦で挑んだ白夜の 大岩壁  平成 20.1.7(月)  NHK	語り 上川 隆也 音楽 五木田岳彦 撮影 根本 隆 高橋 克昌 田村 幸英 音声 山主 文彦 音響効果 立澤 聡 編集 金田 一成 ディレクター 廣瀬 学 櫻井 義久 制作統括 山本 篤 菅井 禎亮 白石 章治 出演 山野井泰史 山野井妙子 木本 哲	かつて世界最強のクライマーと呼ばれた山野井泰史(42歳)とその妻、妙子(51歳)。クライマーとして致命的なダメージを負った2人が、未踏の大岩壁に挑戦し、新たな一步を踏み出すまでの姿を記録したドキュメンタリー。山野井夫妻は、5年前、ヒマラヤで雪崩にあい、夫は手と足の指10本、妻は合わせて18本の指を失った。クライマー生命の終わりと誰もが思ったが、2人はあきらめなかった。リハビリとトレーニングを続け、2007年7月、ついに北極圏、グリーンランドにある高さ1300メートルの垂直の壁「オルカ」に挑んだ。頂上まで19日間にわたる困難なクライミング。この模様をカメラマンも同行登山しながら至近距離から撮影する。 臨場感あふれる映像と音声、互いにいたわりあいながら自分たちの限界に挑戦する夫妻の姿を克明に捉える。	山にかかる夫婦の壮絶とも言える生き方が深い感動を持って伝わってくる人間ドキュメンタリー。 生命の危険と隣り合わせのクライミングの一部始終を迫力ある映像と音声で、捉えており、番組を見る人にカメラの存在を意識させない臨場感が素晴らしい。 夫婦のやりとりが自然で、生死を共にした2人の絆の強さが素直に伝わってくる印象的な作品。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
ネットカフェ難民 ～見えないホームレス急増の背景～  平成 19.11.25(日)  日本テレビ放送網	チーフディレクター 智片 健二 ディレクター 日笠 昭彦 水島 宏明 編集 金 徹 撮影 長田 太平 後藤 吉孝 音声 小林 保 山口 宅 音響効果 加藤 久喜 ミキサー 駒路 健一 ディレクター 高島 雅羅 出演 シュウジ ヒトミ カズオ (仮名) 湯浅 誠 関根秀一郎	生活に困窮して家賃を払えなくなり、ネットカフェに寝泊りする人たちが増えている。 28歳のシュウジはネットカフェ暮らしが長く、格安のコインロッカーがタンク代わりだ。42歳のカズオは故郷に妻と子がいる。しかし仕送りもできず、「日雇い派遣」で働いている。18歳のヒトミはネットカフェ生活で気持ち落ち込んだ時、手帳に「我慢する」という言葉を綴り自分で自分を励ましている。 多くのネットカフェ難民が「日雇い派遣」で生計をたてているが、そこでは「データ装備費」名目で違法な給与天引きが行われていた。 背景にある「貧困ビジネス」や「日雇い派遣」の問題点を明るみに出し、行き過ぎた規制緩和が生み出したひずみの是正を社会に迫る。	規制緩和によって、日本が二極化している現状を正面から捉え、深く実態に迫っている。「ネットカフェ難民」という言葉を広め、社会に問題提起したことも評価できる。 ネットカフェでの生活を捉えた映像は、リアリティがあり、テレビメディアの特性を活かした作品となっている。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>NHKスペシャル あなたの笑顔を覚えて いたい</p> <p>平成 19.10.29 (月)</p> <p>NHK名古屋放送局</p>	<p>制作統括 関 英祐 川合 伸二 ディレクター 福田 和代 取材 中丸 素 撮影 馬嶋 順也 編集 久保田 薫 音響効果 上温湯大史 照明 斉藤 綾子 音声 渡辺 高志 技術 島根 幸宏 語り 原田美枝子 出演 岡本 紀美</p>	<p>岡本紀美さん(37歳)は、10歳のときの交通事故が原因で重い記憶障害が残った。事故の前の事は覚えているが、直前の出来事を忘れてしまう。</p> <p>紀美さんは2年前結婚して男の子を出産。手探りの子育てが始まった。紀美さんは、ミルクの時間や子どもの表情、何でもメモする。やがて子どもは一人歩きを始める。わが子を忘れまいとして過保護になりがちな紀美さん。そんな彼女を温かく、時には厳しい言葉をぶつけながら見守る母親と夫。</p> <p>家族の1年を丹念に淡々と記録し、家族の絆とは何か、記憶とは何かをみつめた。</p>	<p>記憶障害と闘いながら、懸命に子育てに取り組む母親の姿が見るものの心を動かす。</p> <p>社会性のある問題を扱っているドキュメンタリーが多い中で、人間とは何か、記憶とは何かを考えさせられる作品。</p> <p>映像の表現力が高く、母と子の笑顔が印象的。</p>
<p>母は闘う ～薬害肝炎訴訟原告 山口美智子の20 年～</p> <p>平成 20.3.28 (金)</p> <p>アール・ケー・ビー毎日放送</p>	<p>プロデューサー 貞刈 昭仁 ディレクター 大村由紀子 構成 松石 泉 ライター 生野 文治 撮影 森永 浩司 山本 徹 編集 川路 幹夫 音響効果 和田 功 出演 山口美智子 山口 智弘</p>	<p>福岡市の山口美智子さんは、1987年、次男を出産した際、フィブリノゲンによるC型肝炎ウイルスに感染。病気が製薬会社と厚生省の無責任な対応による薬害である可能性が高い事を知った山口さんは、実名を公表し、裁判で闘う。部分的な勝訴も勝ち取るが、山口さんは、原告団代表として、あくまでも薬害患者の全員救済を求める。母親たちの闘いは国民の関心事となり、国を動かす。2008年1月11日、薬害肝炎救済法が可決成立した。</p> <p>普通の母親たちの闘い、その象徴である山口さんの闘いの軌跡をたどる。</p>	<p>山口家に長期間密着した取材で、薬害を起こした政治、行政、企業の無慈悲さを浮き彫りにしている。</p> <p>普通の母親の絶対に妥協しない強さが、国を動かすまでを説得力を持って描いている。</p> <p>山口さんの明朗さが魅力的。また、息子にも目を向けた取材によって、内容に幅と深みが出ている。</p>
<p>映像'07 夫はなぜ死んだのか ～過労死認定の厚い 壁～</p> <p>平成 19.12.10 (月)</p> <p>毎日放送</p>	<p>プロデューサー 里見 繁 ディレクター 奥田 雅治 加藤 智生 出演 廣田 博子 内野 博子</p>	<p>2002年2月、トヨタ自動車の社員、内野健一さん(30歳)は月間100時間を越える過労で急死。しかし、豊田労働基準監督署は、会社側の主張に沿って残業時間を大幅に削り、労災の申請を認めない。</p> <p>このままでは夫に申し訳ない、その思いから妻の博子さんは、決断の取り消しを求めて、たった一人で国を相手に裁判を起こす。証拠を集めて、会社側の勤務資料や同僚の証言をくつがえす困難な戦い。2007年11月、名古屋地裁は、焦点となった職場での改善活動を業務と認め、過労による死と明確に認めた判決を下した。</p>	<p>日本を支えている自動車産業の生産現場で行なわれている過重な勤務実態と過労死認定の問題点を浮き彫りにした作品。</p> <p>従業員による自主的な活動とされてきた職場の改善運動を業務であると認めた判決は、産業界全体にも大きな影響を与える。この判決を引き出した妻のゆるぎない決意と生き方が番組の魅力となっている。</p>

第34回 放送文化基金賞  
「番組部門」  
- テレビドラマ番組 -

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
NHKスペシャル 鬼太郎が見た玉砕 ～水木しげるの戦争～  平成 19.8.12(日)  NHK名古屋放送局	作 西岡 琢也 水木しげる 「総員玉砕せよ!」より 音楽 大友 良英 制作統括 家喜 正男 演出 柳川 強 美術 鈴木 利明 技術 岡本 幹彦 音響効果 上温湯大史 出演 香川 照之 田畑 智子 塩見 三省 嶋田 久作 北村有紀哉 榎木 孝明 高田 聖子 今村 雅美 瑳川 哲朗 石橋 蓮司 ほか	「ゲゲゲの鬼太郎」で知られる水木しげる(香川照之)は、太平洋戦争中、南方の激戦地、ニューブリテン島で爆撃により左腕を失った。この戦争体験をもとに、水木は、身近で見た玉砕を漫画に書き始める。主人公は、自らをモデルとした丸山二等兵(香川の二役)だ。 昭和18年末のニューブリテン島。補給が困難となり、兵士たちは、いつも空腹だった。芋を調達しようとしてワニの餌食になる仲間。折角手に入れたバナナを横取りされる丸山。 米軍に追い詰められた大隊長は、犬死になると反対する部下を押し切って、玉砕命令を出す。数十名の兵士が生き残ったが、玉砕命令が出た以上、彼らは、生きることが許されなかった。2度目の玉砕命令が出され、死体の山の中で丸山も死ぬ。 玉砕を漫画にする間、水木は、棒アイスや大福を大量に食べ続ける。食べられなかった戦友を供養するかのよう。	生きる事を許さない戦争の愚劣さ、不条理さを、末端の1人の兵士が体験した小状況から、丹念に描いている。漫画とドラマ、過去と現在を巧みに織り交ぜ、戦争の現実を多角的に描いた構成力は、高く評価できる。 生きること执着する漫画家水木と無念の思いで死んでいった丸山二等兵を演じ分けた香川照之の演技力も見事。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
テレビ朝日開局50周年 記念ドラマスペシャル 点と線  平成 19.11.24(土) 応募は、第1部  テレビ朝日	原作 松本 清張 脚本 竹山 洋 演出 石橋 冠 音楽 坂田 晃一 プロデューサー 五十嵐文郎 出演 藤本 一彦 ビートたけし 高橋 克典 柳葉 敏郎 夏川 結衣 市原 悦子 小林 稔侍 橋爪 功 内山 理名 竹中 直人 ほか	昭和32年、福岡市の香椎浜で、産業建設省の課長補佐と東京にある割烹料亭の仲居の遺体が発見された。鳥飼重太郎刑事(ビートたけし)は、二人の死に疑問を持つ。課長補佐は、産業建設省の汚職事件の関係者だった。一方、この事件を追っていた三原紀一刑事(高橋克典)は、福岡に派遣され、鳥飼と出会う。 鳥飼は、死んだ二人を東京駅のホームで目撃したという安田辰郎(柳葉敏郎)の証言に違和感を覚える。捜査の結果、東京駅の13番ホームから15番ホームが見渡せることの出来るのは1日のうち、わずか4分間だけという事が判明。鳥飼と三原の地道な捜査と執拗なまでの信念が、犯人を追いつめていく。 松本清張、不朽の名作「点と線」の初のテレビドラマ化作品。	昭和30年代の時代の姿がオープンセットや、CGによってありありと再現されており、ドラマとしての完成度が高い作品。 時刻表の「4分間」のトリックも見事に映像化されている。 登場人物の背景に戦争体験を負わせたことで、単なる謎解きに終わらない人間ドラマとしての奥行きが出た。

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>土曜ドラマ フルスイング</p> <p>平成 20.1.19(土) ～2.23(土) 全6回 応募は、第1回、4回</p> <p>NHK</p>	<p>原案 門田 隆将 脚本 森下 直 関 えり香 さわだみきお</p> <p>テーマ音楽 おかもと だいすけ</p> <p>制作統括 鈴木 圭 デスク 内田 ゆき 演出 海辺 潔 大橋 守</p> <p>出演 高橋 克実 伊藤 蘭 吹石 一恵 萩原 聖人 塚本 晋也 斎藤 工 本田博太郎 小林 克也 里見浩太郎 ほか</p>	<p>「教える」ことに人生の全てを捧げた一人の男がいた、打撃コーチ高畠導宏(高橋克実)。 7つのプロ球団を渡り歩き、落合、イチローなど30人以上のタイトルホルダーを育てた名コーチは、59歳で福岡の高校の教師になった。彼は、30年のコーチ人生で培った優れたコーチング力で、悩める思春期の子供達と現場の教師たちを大きく変えていく。しかしわずか1年でがんに倒れ、志半ばで逝去した。新米教師「高さん」と、彼の思いを受け止め、成長していく子どもたちと教師たちの感動の実話のドラマ化である。</p>	<p>単なる熱血教育ドラマではなく、どの教育現場でもありそうな問題を一つ一つきちんと取り上げ、描いている。 主人公とその周辺の先生達の個性と役割がはっきりしており、メリハリあるドラマに仕立て上げた脚本に力がある。 本物そっくりと評された高橋克実の熱演は、見応え充分だった。</p>
<p>NHKスペシャル シリーズ 最強ウィルス 第1夜 感染爆発～パンデミック・フルー～</p> <p>平成 20.1.12(土)</p> <p>NHK</p>	<p>脚本 林 宏司 音楽 千住 明 脚本協力 響堂 新 演出 望月 良雄 制作統括 山元 修治 城谷 厚司 大久保嘉二</p> <p>取材 虫明 英樹 制作 篠原 圭 出演 三浦 友和 麻生 祐未 佐藤 慶 河西 健司 大和屋ソセキ 森山周一郎 沼田 爆 占部 房子 林 泰文 深浦加奈子 坂上 忍 ほか</p>	<p>近未来の2008年11月。日本海に面する寒村で「H5N1型新型インフルエンザ」の患者が確認された。東京・港川区の病院副院長・田嶋哲夫(三浦友和)は、そのニュースを見つめていた。一方、村に飛んだ感染症予防研究所の奥村薫(麻生祐未)は感染源らしき木造船を発見する。村を封じ込め、根絶を図る政府。ところが意外な形でウィルスは東京中に蔓延。感染者・死者は数万人に上った。ウィルスに侵された人々が行き場をなくす中、田嶋は自分の病院に感染した患者の受け入れを決める。</p>	<p>ややもすると啓蒙的になりがちな近未来ドラマだが、人と人の屈折、葛藤、対立も描かれており、ドラマチックな仕上がりになった。 「近く訪れるだろう危機」をドラマの形にしたことによって社会へのメッセージ性が強くなった。 放送後の反響も大きく、テレビとは、ドラマであってもジャーナリズムであることを再確認させた作品。</p>

第34回 放送文化基金賞  
「番組部門」  
ラジオ番組

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
FMシアター 明治おばけ暦  平成 19.12.8 (土)  NHK	作 山本むつみ 音楽 大河内元規 制作統括 小松 隆一 技術 糸林 薫 音響効果 井上 直美 演出 保科 義久 出演 嵐 広也 嵐 圭史 藤川矢之輔 小佐川源次郎 中嶋 宏幸 河原崎國太郎  ほか	明治5年11月9日、暦を太陰暦（旧暦）から太陽暦（新暦）に変える太政官布告が出た。12月3日をもって明治6年1月1日とする内容だ。急激な改暦で庶民の生活は大混乱。何故、改暦を急いだのか。暦問屋の若旦那、栄太郎は、改暦の張本人、太政官参議の大隈重信侯に掛け合って真相を聞きだそうとする。しかし、尋常の手段では無理。歌舞伎作者の河竹新七（後の黙阿弥）が、元盗人の常吉がかどわかしてきた大隈侯の前で一夜限りの芝居を仕組む。題して「御改暦開化の暗闇・大川端勢揃いの場」。名セリフに乗って庶民の困苦を訴える栄太郎たち。大隈侯が明かしたのは、新政府の驚くべき台所事情。急な改暦には、国の都合を優先した判断があった。	歴史の一コマから奇想天外な物語を作り上げ、ドラマとしての想像力に溢れた作品。 脚本、演出、出演のいずれもレベルが高く、ラジオドラマとしての楽しさを堪能させてくれる。 庶民の娯楽だった歌舞伎を展開の軸にすえたことで、江戸から近代日本へと移り変わる時代の変化と庶民の困惑を巧みに表現している。
ラジオ・ドキュメンタリー 85歳のアスリート 秘訣～健康だから できること～  平成 19.11.24 (土)  エフエム沖縄	企画・構成 山川 悦史 ル・ショ 多喜ひろみ 実況 永田 時彦 レコーディング 竹内 新悟 音楽 しゃかり 仲田かおり (彩風) 下地 勇 出演 山川 文康 山川セツ子 藤木 勇人 下河原 孝 ほか	陸上競技が趣味の山川文康さんは“長寿県・沖縄”を代表するスーパーおじいちゃん。平成18年11月、自分の85歳の誕生日に、家族にある決意を表明した。なんと翌年の9月にイタリアで開催される「世界マスターズ陸上競技選手権大会」に参加すると。それから一年、努力の甲斐あって山川さんは日本代表としてイタリア大会に出場が決まった。85歳にして鉄人レースと言われる10種競技に出場し、見事銀メダルを獲得する。 番組では参加表明してから大会出場までの一年余り、山川さんに密着取材した。元気の源であるスマイルを山川さんはビタミンSと言う。そして、愛妻セツ子さんとの語らいなどを通し、彼の人間味溢れた人生観をユーモアたっぷりに描く。	出演者の言葉が生き生きしてラジオの特性である音の魅力が十分に発揮されている。 出演者の次男が番組の制作者という間柄だが、適度な距離を保った制作姿勢により、他者にも開かれ、誰もが楽しめる番組となった。 沖縄の風土を感じさせる挿入歌も効果的に使われている。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>浪曲「吉岡先生」と 大阪防災元年</p> <p>平成 19.5.29 (火)</p> <p>大阪放送</p>	<p>プロデューサー ・ディレクター ミキサー 音響効果 出演</p> <p>吉村 直樹 川島 広明 杉浦 広計 松本 恵治 菊地まどか</p>	<p>大阪の防災事始になった大災害の教訓を浪曲とドキュメントでたどる番組。</p> <p>昭和9年、室戸台風が大阪を直撃し甚大な被害を出した。この時、豊津尋常高等小学校の吉岡藤子先生は、崩れ落ちる木造校舎にいた児童を身を挺して庇い、5人を助けたものの、吉岡先生は殉職した。この史実を若手女流浪曲師の菊地まどかさんが、浪曲『あゝ吉岡先生』と題して語る。</p> <p>番組は、教え子に限りない愛情を注いだ先生の物語を軸に、当時の記録や老齢となった体験者へのインタビューなどを交えて室戸台風の実態とその教訓を今に再現する。</p>	<p>ラジオに期待されている防災の報道性と浪曲のエンターテインメント性を組み合わせた構成がこの番組の魅力。</p> <p>当時の台風を再現したドキュメント部分も取材がしっかり行なわれており、災害の恐ろしさを語る浪曲とあいまって、防災番組として説得力のある番組となった。</p>
<p>あの日あの時あの時代・福岡フォーク物語</p> <p>平成 19.5.27 (土)</p> <p>オール・ケー・ビー 毎日放送</p>	<p>制作 演出 構成 音楽・効果 技術 出演</p> <p>永渕 秀昭 伊集院晃生 松石 泉 沼口 公憲 安増 高志 野見山 實 佐々 友成 赤尾 和則 南こうせつ ピース(山下 恭信・恭長)</p>	<p>アメリカで生まれたフォークソングは日本でどんなふう広がっていったのか。</p> <p>井上陽水、チューリップ、海援隊を輩出し、かつてフォークのメッカと言われた福岡の視点から日本のフォークの歴史をたどる。地元放送局の音楽番組プロデューサーや、レコード会社のプロデューサーだった人達の証言を通して、フォークソングが、それぞれの時代のなかで如何に生まれ、輝き、やがてその役割を終えていったのかを検証していく。</p> <p>そして、平成の若手フォークシンガー達が、これからのフォークソングにかける熱い思いを語る。</p>	<p>井上陽水のデビュー当時のエピソードなどが盛り込まれ、40年間のフォークソングの歴史をコンパクトにまとめた音楽番組。</p> <p>時代をリードしていた福岡の音楽制作者達がフォークソングにかける熱い思いを語り、フォークの歴史を振り返る貴重な資料ともなっている。</p>

第34回放送文化基金賞

「番組部門」- 個別分野 -

出演者賞

受賞者	対象番組	選考理由等
かがわ てるゆき 香川 照之	鬼太郎が見た玉砕 (NHK名古屋放送局)  テレビドラマ番組	生きている漫画家水木しげると無念の思いで死んでいった丸山二等兵を見事に演じわけ、生きることを許さない戦争の愚劣さを強く訴えた。

出演者賞

やまのい やすし 山野井 泰史 やまのい たえこ 山野井 妙子	夫婦で挑んだ白夜の 大岩壁 (NHK)  テレビドキュメンタリー番組	山に全てを賭け、限界に挑戦する姿が感動を呼ぶ。生死を共にした夫婦の絆の強さも心を打つ。
--	--	---

制作賞

やまかわ えつし 山川 悦史	85歳のアスリート (エフエム沖縄)  ラジオ番組	父親を取材対象としながら、他者にも開かれ、誰もが楽しめる人間ドキュメンタリー番組を制作した。
-------------------	------------------------------------	--

演出賞

やながわ つよし 柳川 強	鬼太郎が見た玉砕 (NHK名古屋放送局)  テレビドラマ番組	漫画とドラマ、過去と現在、幻想と現実を巧みに織り交ぜ、戦争の愚劣さ、不条理さを多角的に演出した力量は見事だった。
------------------	---	--

映像賞

ねもと たかし 根本 隆 たかはし かつまさ 高橋 克昌 たむら ゆきひで 田村 幸英	夫婦で挑んだ白夜の 大岩壁 (NHK)  テレビドキュメンタリー番組	大岩壁に挑戦する困難な登攀に同行取材し、その一部始終を迫力ある映像で撮影し、優れた人間ドキュメンタリー番組とした。
--	--	---

### 第34回放送文化基金賞

#### 「個人・グループ部門」

#### - 放送文化 -

受賞者	業績	業績内容・選考理由
いしばし かん 石橋 冠 (演出家)	『点と線』をはじめとする長年にわたる優れたテレビドラマの演出	1960年日本テレビ入社、一貫してドラマ畑を歩み、『池中玄太 80キロ』等の作品を演出。97年に定年退職後は活躍の場を広げ、『新宿鮫』(NHK)『角笥にて』(テレビ東京)等多彩な作品を手掛けた。『点と線』(テレビ朝日・07年・芸術祭大賞)では昭和30年代を舞台とした松本清張の世界をリアルにドラマ化した。確かな人間描写と緩急自在のテンポで見る者を引っ張っていく演出手腕は、円熟の域に達したと言える。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
なかの ひでよ 中野 英世 (NHK メディアテクノロジー チーフ・カメラマン)	優れたカメラ映像による放送文化への貢献	1972年NHK入局、カメラマンとして活躍し、数々の賞を受賞。昨年は自ら瀬戸内海のハンセン病療養所の島に一年間通い島に暮らす元患者に取材した、ハイビジョン特集『忘れないで』、杜撰な特攻作戦を告発したNHKスペシャル『学徒兵許されざる帰還～陸軍特攻隊の悲劇～』等で取材対象者との信頼関係を築いた上での見事なカメラワークを発揮。また、カンヌ映画祭コンペティション部門グランプリを受賞した『殞の森』で撮影を担当する等映画界でも評価が高い。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHKスペシャル 「激流中国」制作グループ	中国の深層を描くドキュメンタリーシリーズの取材・制作	2007年4月～2008年3月まで10回にわたり放送。深い取材・撮影が難しい中国で、中国取材を重ねてきた経験者がNHK内外から結集し、「格差の実態」「報道統制」「土地収用問題」「環境」「チベット」「共産党組織」「知的所有権」といった従来タブーとされてきたジャンルに切り込み、問題の深層をえぐりつつ、中国の今の現実とそこに生きる人々を伝えた意義は大きい。中国でこれだけの取材を実現したことは高く評価でき、次のシリーズに期待したい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK「かぐや」プロジェクト	月周回衛星「かぐや」のハイビジョンカメラによる「地球の出」「月面」の撮影及び番組・ニュースの制作	宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携し、月周回衛星「かぐや」に搭載したNHKの宇宙用ハイビジョンカメラによって、月面越しに地球が昇る「地球の出」、沈む「地球の入り」を撮影。特集番組『探査機“かぐや”月の謎に挑む』を始め、ニュースや番組を通して放送された瑞々しい地球の映像は見る者に深い感動を与えた。遠くのを茶の間に届けてきた放送の歴史に新たな1ページを付け加えた。

### 第34回放送文化基金賞

#### 「個人・グループ部門」

#### - 放送技術

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
「かぐや」搭載HDTV開発グループ 代表 山崎 順一 (NHK)	月周回衛星「かぐや」に搭載した月と地球をHDTVで撮影するシステムの開発	月周回衛星「かぐや」には高精細撮影システムが搭載され「地球の出」をはじめとする貴重な映像を撮影し、宇宙空間から地球に伝送した。システム搭載決定から打ち上げまでの6年間、質量や容量の制限、打ち上げ時の振動、宇宙空間での熱環境や宇宙線の影響など、多くの課題を克服して信頼性の高いシステムを構築した。今回初めて撮影した月面の様子や地球の鮮明な映像は後世に残る貴重な映像であり、多くの番組やニュースで放送し好評を博した。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
FileCast 開発・導入グループ 代表 木村 好信 (フジテレビジョン)	取材映像IP伝送システム(FileCast)の開発と実用化	インターネットの世界的普及に着目し、どこからでも、誰でも、簡単に取材映像を番組に役立てられるように、映像品質と伝送機能に優れた素材伝送システムを開発した。このシステムの特徴は、長距離伝送において高速伝送を実現できる仕組みを使っており、携帯電話から光回線まで伝送路を選ばず品質劣化のない伝送が行える。本開発により、ニュース番組取材において、これまでにない利便性や大幅なコストの削減を実現している。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
チャンネルイレーサー「凸凹くん」開発チーム 代表 佐藤 誠 (日本テレビ放送網)	地上デジタル放送用ギャップフィルター装置～チャンネルイレーサー「凸凹くん」の開発～	地上デジタル放送を全国に普及させるため、また非常災害時に地下街でもワンセグサービスが受けられるためには、低コストで簡単に再送信ができるギャップフィルター装置が望まれている。このため必要なチャンネルのみを効率的に選択できるデジタルフィルタ手法により、小型で、低コストな装置を開発した。その後、多くのフィールド実験を重ねて製品化し、川崎地下街で採用された。今後、地上デジタル放送やワンセグサービスの普及への寄与が期待できる。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
谷知 紀英 近藤 五郎 (讀賣テレビ放送)	違法動画サイト対策に絶大な威力「とりし丸」の開発	「とりし丸」は動画投稿サイトでの著作権違反の動画を見つけ出し、そのIDを取得して削除するまでの作業を大幅に省力化できるツールである。従来1週間かかっていた作業が、現在では10分程度で完了できる。これにより以前YouTubeで数万件あった自社アニメ番組の違法動画が、今ではほとんど無くなり、常にその状態をキープすることができている。「とりし丸」はNHK・民放キー局5社でも採用され、汎用性が高く非常に有効なツールである。